

第5学年〇組 国語科学習指導案

平成23年〇月〇日 (〇) 第〇校時

指導者 〇〇小学校 〇〇〇〇

1, 本時の授業テーマ

話し合いから、筆者が主張する大事な言葉や根拠を明確にしていくことで、筆者の主張をとらえることができる授業

2, 単元名 説明のしかたについて考えよう「天気を予想する」

3, 単元の目標

【関心・意欲・態度】前半部分と後半部分の書かれ方の違いに着目し、筆者が伝えたいことを考えながら読もうとしている。

【読むこと】筆者が伝えたいこと、論の進め方、図表などの活用について感想を発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。

4, 単元設定の理由

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領第5学年「読むこと」の指導事項(1)―ウ「目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること」、(1)―オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」に基づいたものである。

本教材は、天気予報の的中率が近年高くなった理由と百パーセントの中させる難しさについて、図やグラフなどを使って説明した上で、天気の変化を予想し、次の行動を判断するのは自分自身であることを主張した説明文である。最初に文章全体を覆う大きな問いがあるわけではなく、小さな問いがあって答えがあり、そのつながりからまた新たな問いが生まれてくるということを三回繰り返す構成となっている。また、図やグラフを用いながら事実を説明している部分(前半)と筆者の考えを述べている部分(後半)からなっておりとらえやすい。読み手の思考の流れに沿いながら、自分の主張へと徐々に論の方向性を向けていく展開となっている。表・写真・図・グラフなどの非連続型テキストが用いられ、説明が展開されている。資料を用いて説明することで、読み手の納得を促すように意図され、説明のしかたについて読み取り考えるのに適した教材である。

(2) 児童について

①5月に実施した国語科の意識調査より 調査人数25名

〈学習への関心について〉	すき	少しすき	少しきらい	きらい
国語の学習は、好きか。	10	12	3	0
教科書の文章(内容)を読むことが好きか。	15	10	0	0
文章を書くことが好きか。	5	12	7	1
〈学習のしかたについて〉	はい	まあまあ	あまり	いいえ
授業では、めあてをもって取り組んでいるか。	10	15	0	0
初めて読む話でも、話の中身が分かるか。	13	11	0	1
家庭で学習したことを授業で役立てているか。	12	13	0	0
自分の考えを書くことができるか。	19	4	2	0
自分の考えを進んで発表しているか。	9	14	2	0
授業の後に自分の学習を振り返ることができるか。	4	19	1	1
学習したことを生活の中で役立てているか。	9	14	2	0

国語の学習が「好き・少しすき」と答えた児童は、22名であり、その理由は、「文章、物語を読むのが

好きだから」「意味調べが好きだから」「どうしてこう思ったのかと深く考えることができるから」というものがあった。「少し嫌い・嫌い」と答えた3名の理由は、「漢字が難しい」「文章を書くのが苦手」「考えることが難しいから」というものだった。国語の関心を「読むこと」「書くこと」の領域別に見ると、「読むこと」が「少し好き・好き」と答えたのは、25名全員と答えたのに比べ、「書くこと」については、17名と減っている。

学習のしかたについては、話の中身を一回で読み取ることができると自信をもって答えた子が約半数で、文章を読んでも自分の考えをなかなか持つまでにいたらない子が多い。人前で話したり、書いたりして思いを表現するのに抵抗を持っている子が、学級の約3分の1を占めている。自分の考えを持ってない、表現できない大きな原因は、文章や話の筋を追っていけず、考えを構築できないということが考えられる。また、自分の学習をふり返ったり生活に役立てたりと明確に言えない子が多いことも分かった。

以上のことから、文章や話の筋が見えるように、授業では文章と資料を読み合わせながら、事実と意見を明確にしていく。また、資料が入った説明文の読み取り方を定着させるため、他教科や日常との関連を図っていくことも必要であることが分かった。

②昨年度の国語科学力テスト（NRT）の結果より

昨年度の学力テストの結果は、全国比で「話すこと・聞くこと」が***、「書くこと」が***、「読むこと」が***、「言語事項」が***であった。4領域とも全国比より上回っているが、「読むこと」の領域が他領域より下回っている。さらに「読むこと」における中領域では、「段落の関係を考えながら読むこと」が***、「場面や情景を想像しながら読むこと」が***、「まとめや細部に注意して読むこと」が***であった。このことから、**段落やまとまりを考えながら、具体的に資料などをもとに文章理解できるようにすることが課題であることが分かった。**

③レディネステストの結果より

項目	当てはまる	少し当てはまる	少し当てはまらない	当てはまらない
1、段落、文章構成の読み取りができる。	5	2	2	13
2、資料と対応している文章を読み取ることができる。	9	1	14	1
3、グラフを用いた理由を読み取ることができる。	1	7	2	15
4、要旨を読み取ることができる。	3	7	11	4

児童はこれまでに、問いと答えの関係が明確で、構成がとらえやすい3年「すがたをかえる大豆」、4年「アップとルーズで伝える」を学習し、中心になる文や段落の関係について学んできた。また、グラフを活用することは、4年「読書生活について考えよう」で学習している。レディネステストの結果をみると、文章構成や段落ごとの要旨を正確に読み取ったり、資料はどの文章を説明しているものなのか分析したりすることを苦手としている子が多い。

(3) 指導について

以上のような教材観や児童の実態をふまえ、本単元では、「文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえたり、自分の考えを明確にしながらかく力」「考えたことを発表し合う中で、自分の考えを広めたり深めたりできる力」を身につけさせることを目指していく。そのために、二学期始めに学習した「豊かな言葉の使い手」とは、「相手を説得することができる」「分かりやすく伝えることができる」人でもあるという学習とつなげ、相手に伝えるためのテクニックの一つとして、「資料を提示しながら分かりやすく説明できる方法を見つけ出そう」という大きな目標を設定し学習を進めていく。

「天気を予想する」を読み、筆者武田康男さんの主張したいことは何か話し合い簡単に押さえた後で、どんな文章構成で説明されていくか簡単に予想を立てさせる。文章構成を意識させながら全文を読ませ、学習課題「説得力のある分かりやすい文章を書くテクニックを探ろう」と計画を立てる。

最初のテクニックとして「文章構成を探る」とし、3つの問いとその答えの関連を考え、文章構成を読み取っていく。今まで学習してきた説明文とは違い、1つの問いの答えからまた新たな問いが生まれ、解決してい

く小ステップ型であることに気づき、この文章構成もテクニックの1つであるとしていく。2つ目のテクニックとして「筆者の主張と本文のつながりを探る」とし、結論部分を推論して書くことで、筆者の論の展開に興味を持ち、本文から主張の根拠になる手がかりを読み取り、筆者の主張をとらえていく。3つ目のテクニックとして、「資料と文章のつながりを探る」とする。資料から情報を取り出し、文章との関わりを調べる。その上で資料を取り入れた文章を書く技術をつかませていく。以上のことから、相手を説得する工夫、分かりやすく相手に伝えるための工夫を見つけ出しまとめていく。その後次の単元で、実際に資料を提示しながらの説明文を書くポイントを本単元の学習を生かしてさらに押さえ、書く活動につなげていく。

また、資料の読み取りとつなげて、社会科学習との関連も図っていく。資料集や教科書に出てくるグラフや写真などを読み取り、社会情勢の変化などに気づかせ自分の考えを持つことができるようにさせていきたい。

本時は、テクニック2「筆者の主張と本文のつながりを探る」の段階で、自分が推論して書いてきた文章と10段落を比較しながら筆者の主張の根拠と大事な言葉の話し合いを通して明確にし、主張をとらえていく場面である。使用するテキストは、結論部分の10段落が無い、1～9段落の資料と文章である。筆者の主張をどのように推論し、どのような根拠から書いたのか話し合い、10段落の筆者の書いた文章と比較させる。どのようなところが同じだったのか読み取らせ、筆者の主張の根拠と欠かしてはいけない大事な言葉について話し合い、主張の要点をとらえさせていく。以上のことから、筆者の主張に対する意見文を書くにつなげていきたい。

(4) 本時での具体的な手立て

- (1) 自分の考えを持たせ、表現させるための指導の工夫
 - ① 話し合いの場での支援の工夫
 - ア 筆者の主張を含んだ10段落を推論しワークシートに記入させ、自分の考えを明確にさせておく。
 - ② 表現する力を高める日常的な取り組み
 - ア 自分の考えについてどう思うか、友達に聞き合ったり、考えを書いたノートを読み合ったりし、友達の意見や教材から自分はどうか考えるか根拠を入れてつなげて話すように支援する。
- (2) 個に応じた指導の充実
 - ① 本時における個に応じた手立て
 - ア 筆者の主張をまとめて書く一人学習において、自分の考えがなかなか書けない児童には、話し合いで出た大事な言葉や根拠を振り返らせたり、友達の書いた文を参考にさせたりする。
 - ② 達成基準の設定
 - ア 「自分・自身」という大事な言葉を見つけて、筆者の主張の要点を書くことができる。

5、単元構成と家庭学習

総時数 7時間

次	学習活動	時	関心意欲態度	読む	伝・国	家庭学習
						言葉の意味調べ、新出漢字の書き順練習をする。 段落・文番号をつける。
一 つ か む	○「天気を予想する」を読み、学習の流れをつかむ。 ①「説得力のある分かりやすい文章を書くテクニックをさぐる」とい	1	筆者の論の進め方を読み取っていこうと課題を話し合い、計画を立てようとしている。	教材文を通読し、本文の大体の内容をつかむことができる。		音読と新出漢字の練習(単元を通して)、語句の意味調べをする。 問いと答えの文を見つけてくる。 段落番号文番号をつけ

	うめあてをもち、学習の見通しをもつ。					てくる。
二 読 む	○説得力のある文章を書くテクニック（文章構成）を探る。 ① 3つの問いとその答えと理由、根拠を見つけ、3つの関連を読み取る。 ② 事実と意見の文を明確にしなが段落の要点をとらえ、意味段落にまとめる。 ③ これまでに学習した説明的な文章と読み比べ、文章構成の違いを見つける。	2 3 4	3つの問いと答えのつながり、各段落の要点から、文章構成を読み取り、4年「アップとルーズで伝える」と比較しようとしている。	段落の要点を短い文でまとめることができる。 問いと答えの関係や文章構成の違いについて、他の教材との比較読みができる。	主語、修飾語、述語の関係に気をつけて文の意味をとらえる。 ・ <u>修飾語＋主語</u> ＋修飾語＋述語。 ・ <u>要因（～によって）</u> ＋主語＋述語。 ・ <u>限定（～には）</u> ＋主語＋述語。	事実の文には青線、意見文には赤線のサイドラインを引く。 各段落の中心文を見つける。 4年「アップとルーズで伝える」の文章構成をまとめる。
	○説得力のある文章を書くテクニック（筆者の主張と本文のつながりを探る）を探る。 ① 結論部分には何が書いてあるのか話し合い、その後1～9段落をもとに推論して書く。 ② 自分たちが推論して書いた文章と筆者の主張文を比べ、主張の根拠と大事な言葉を読み取り、主張をとらえる。	5 6 本時	結論を推論して書こうとしている。 結論部分に書かれた筆者の主張をとらえようとしている。	1～9段落を読み、筆者の主張の根拠になる文や言葉を読み取る。 10段落の筆者の主張と根拠の話し合いを通して読み取ることができる。		自分の書いた推論文をもとに、筆者の主張は何か説明できるようにしてくる。 筆者の主張に対して意見文を書く。
三 表 現 す る	○説得力のある文章を書くテクニック（資料と文章のつながり）を探る。 ① 資料（グラフ）から情報を取り出し、文章と対応させ書く。	7	資料（グラフと表）から情報を取り出し、文章と対応させ書こうとする。	資料（グラフと表）の情報を読み取り、文章と対応しているか読み取ることができる。		「説得力のある文章を書くためには」というテーマで、新聞を書く。

6、本時のねらい

- ◎ 話し合いから、筆者が主張する大事な言葉や根拠を明確にしていくことで、筆者の主張の要点をとらえることができる。

7、学習過程

学習過程・内容	時間	○留意事項	評 価	
<p>1、前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p>	2	<p>○10段落には、筆者の主張が書いてあることを確認し、自分たちの推論した10段落と比べていくことを投げかけ、児童の意欲を高める。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分たちの書いた文章と筆者の文章を比べながら、筆者の主張を読み取っていきこう。</p> </div>		<p>○児童に渡すテキストは、1～9段落までの本文と資料で、筆者の主張が書いてある10段落は空欄にする。本単元の最初からこのようなテキストで学習を進め、そこにどんな文章が入ってくるのか興味を持たせながら学習を進めていく。</p>		
<p>2、推論して書いてきた自分の文章を再度読み直し、話し合う。</p>	10	<p>○自分の書いた推論文では何を筆者は訴えようとしたのか、家庭学習で主張している文に赤でサイドラインを引かせ明確にさせておく。自分の考えを明確にさせておくことで、話し合いに参加させる。【手立て(1)①ア】</p>		
<p>(1) どんなことを主張すると書いてきたのか。</p>		<p>○自分の推論した主張の根拠を1～9段落の本文や今まで学習して読み取ってきた各段落の要点や意味段落、文章構成などを掲示しておき、そこからつなげて話し合わせていく。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>予想される児童の反応</p> </div>		<p>【手立て(1)②ア】</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身で雲を見よう・もっと科学技術を進歩させるべき ・国際協力をさらに実現させるべき・突発的局地的な天気にも対応できる技術の開発・ことわざや地域の特色をもっと勉強すべき・分からない 		<p>○教科書10段落を読ませる前に、児童の話し合いで出てきた言葉や文が、筆者の主張文にもあり意味が合っていたら、筆者の考えを正しく推論できたことになることを確認する。</p>		
<p>(2) なぜそれを筆者は主張すると考えたのか。</p>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>予想される児童の反応</p> </div>				
<ul style="list-style-type: none"> ・1～9段落の言葉や今までの学習からつなげて、根拠を話す。 				
<p>(3) 筆者の主張と比較する観点を確認する。</p>				
<p>観点1・主張文の大事な言葉は合っているか。</p>				
<p>観点2・主張していることは同じか</p>				
<p>3、教科書の10段落と自分の考えを比較する。</p>	20	<p>○児童の早く10段落を知りたいという気持ちを考え、全員一斉で音読させる。</p>		
<p>(1) 10段落を音読する。</p>		<p>○10段落から筆者は何を主張しているか文章をよく読ませ、大事な言葉にサイドラインを引かせる。なぜその言葉が大事だと思うか根拠をつけて話し合いを進めさせる。</p>		
<p>(2) 筆者の主張で大事な言葉とは何か話し合う。 「自分・自身」</p>		<p>【手立て(1)②ア】</p>		
<p>(3) 主張していることは同じか読み取り、どの考えが合っていたか検討する。</p>		<p>○2つの観点から児童のどの考えが筆者と同じように推論されていたのか児童と確認していき、どの部分が筆者の主張と同じだったのか読み取らせる。</p>		
<p>(4) 筆者主張の要点を書く。 科学的な天気予報を1つの有効な情報として(自分自信で空を見、風を感じることを大切にしたいも)のだ。 ・筆者の主張の要点を発表し合う。</p>	5	<p>○筆者が南極地域観測越冬隊員であったことから、天気を正しく判断することが命を守ることにつながっていた話を思い出させ、筆者の気持ち、思いに近づかせる。</p>		
<p>(4) 筆者主張の要点を書く。 科学的な天気予報を1つの有効な情報として(自分自信で空を見、風を感じることを大切にしたいも)のだ。 ・筆者の主張の要点を発表し合う。</p>	5	<p>○教科書を見ながら、主張文の要点を大事な言葉を入れて書かせる。</p>		
<p>(4) 筆者主張の要点を書く。 科学的な天気予報を1つの有効な情報として(自分自信で空を見、風を感じることを大切にしたいも)のだ。 ・筆者の主張の要点を発表し合う。</p>	5	<p>○なかなか要点を書けない児童には、筆者は何を言いたかったのか問いながら振り返らせ、大事な言葉を確認し書かせる。どうしても書けない児童には、友達の発表を参考にさせる。</p>		
<p>4、国語日記を書き、今日の学習で分かったことや感想を書く。</p>	3	<p>【手立て(2)①ア】</p>		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大事な言葉「自分・自信」という言葉を入れて、筆者の主張の要点を書くことができる。 【手立て(2)②ア】</p> </div> <p>○ 本時の自己評価を国語日記で振り替えさせる。</p>		

8、本時における個に応じた手立て

<p>A児</p> <p>① 学習に対する関心 自分の考えを積極的に発表することができる。</p> <p>② レディネステストの結果と実態 1、* 2、* 3、* 4、* 初めて読む文章でも、大体の粗筋をとらえ、グラフと対応させて文章を読み取ることができた。しかし要旨を正確にとらえることはできなかった。</p> <p>③ 教師の願いと支援 話し合いの中で、どうしてそれが主張していることなのか根拠を本文や今までの学習から探させ、話し合わせたい。</p>	<p>B児</p> <p>① 学習に対する関心 自分の考えを積極的に発表し、友達の話からもつなげることができる。</p> <p>② レディネステストの結果と実態 1、* 2、* 3、* 4、* 初めて読む文章でも、大体の粗筋をとらえ、グラフと対応させて文章を読み取ることができた。しかし文章構成図と要旨を正確にとらえることはできなかった。</p> <p>③ 教師の願いと支援 友達の考えをよく聞き、話し合いの全体の流れをつかませ、意欲的に話し合いに参加させたい。</p>
<p>C児</p> <p>① 学習に対する関心 国語科学習に対する関心はあまり高くないが、理科は好きである。挙手もさほど積極的ではない。</p> <p>② レディネステストの結果と実態 1、* 2、* 3、* 4、* グラフと対応させて文章を読み取ることができた。しかし文章構成図と要旨を正確にとらえることはできなかった。</p> <p>③ 教師の願いと支援 友達と自分の考えを比較しながら、自分の考えを明確にさせ、発言できるようにさせたい。</p>	<p>D児</p> <p>① 学習に対する関心 国語科学習に対する関心はあまり高くない。話し合いの筋をとらえ理解したり、文章を書いたりするのが苦手である。</p> <p>② レディネステストの結果と実態 1、* 2、* 3、* 4、* グラフと対応させて文章を読み取ることができなかった。大事な言葉に気づくことができたが、文章構成図と要旨を正確にとらえることはできなかった。</p> <p>③ 教師の願いと支援 個別に声をかけたり、友達の考えを参考にさせたりして自分の考えを持たせ、友達の考えをよく聞かせるようにさせたい。</p>

9、予想される板書図

